

とやま地域医療連携ネットワーク推進事業

【趣 旨】

社会の高齢化や医療の高度化・細分化、医師の働き方改革により生じる「医師不足」を解消するために、富山大学にて、医学生の入学時から卒後臨床研修を経て専門医になるまでの支援を行う「医学生・若手医師のキャリア形成支援」を行い、医学生・若手医師を集めるとともに、県内定着を図る。

合わせて、「県内の医師偏在」を解消するために、富山大学附属病院にて、「地域医療総合支援センター」を設置し医師派遣を一元管理し、医師の偏在分析などをもとに実態に即した派遣を行う。

これらを行う寄附講座を富山大学に設置し、地域医療を担う医師を確保し、県民が質の高い必要な医療を受けることができるようにするもの。

【事業内容】

- 1 地域枠・特別枠等の医学生及び卒業生医師のキャリア形成支援による医師の県内定着
 - ・医学生の入学時から、卒後臨床研修を経て専門医になるまでの支援
 - 県内のマッチ者数増や臨床研修後の定着促進
- 2 医療圏・公的病院ごとの医師不足・偏在状況の調査・分析
 - ・県内医師の働き方改革を踏まえた医療圏・公的病院ごとの医師偏在の分析研究
 - ・2024(R6)年にスタートする医師の働き方改革の法規制に向けた県内医師の将来需給推計（診療科ごとの分析を含む）→地域医療構想の基礎データなどにも利用
- 3 医師派遣の一元管理、派遣調整
 - (1) 大学の医師派遣を一元管理する「地域医療総合支援センター」の設置
 - ・「地域医療総合支援学講座」が運営
 - ・2の分析や3(2)協議会の結果などに基づき、派遣調整
 - (2) 医師派遣調整のための富山県医師確保総合支援協議会の設置
 - ・協議会メンバーは、富山大学附属病院、県厚生部、市町村、医師会、他の公的病院、金沢大学附属病院等

とやま地域医療連携ネットワークの構築を目指し、4医療圏の代表以外の県内公的病院長の資格をオブザーバーから正式な委員とし、協議会の体制を強化
 - ・富山県医師適正配置等調査の結果（直近のDPCデータやレセプトデータ、三師調査データをもとに、医療需要や医師配置を分析）について協議する。県内の調査対象医療機関の病院長が委員となり、相対的な分析データに対し、個別病院・地域医療の疾患に応じた医療需要の意見を反映する。

H30～R2実績 計6人（産科・救急科医師3年間で12人）特別枠の医師を選定しない
 - (3) 県内の公的病院等に毎年新規2名の医師を派遣
 - ・派遣対象とする診療科は、R3調査分析結果に基づき選定
 - ※ 派遣先は、県と富山大学附属病院長で協議し決定

※ 設置期間（R2～④） ただし、毎年の事業実績をふまえて継続を判断